

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価書】

堺市立東陶器小学校
校長 間地 洋介

中学校区におけるめざす子ども像

◎未来を切り拓く東中っ子 ○自分で考え、実行（表現）できる子 ○思いやりを持ち、仲間と協働できる子 ○心と体をしなやかに、たくましく生きる子

令和7年度 重点目標

- ・各教科において、子どもの問いから出発し、全員が安心して確実に一連の問題解決に取り組むことができる学習、その学年で身につけるべき資質・能力や見方・考え方を明らかにし、身につけられる学習を展開する。
- ・生活・総合的な学習の時間において、子どもが自ら対象に働きかけ、追究を続ける「探究」の学びができるように、地域を中心とする学校内外の人的・物的環境（ICT環境を含む）を活用した教材・題材開発と実践を展開する。
- ・宿題や自主学習の質や量に工夫を加え、家庭との連携を図る。以上を含むすべての教育活動を、これまで通り、子どもの現状を深く理解し、その人権を尊重するところからスタートさせ、自己肯定感を高め、自立した学習者を育成する。

「確かな学び」の現状

教科全般に、個別の知識技能の習得に終始せず、資質・能力や見方・考え方の育成をめざした学習指導を展開しているが、学びの蓄積が少ないために手応えを感じられず、課題に向き合うことがむずかしい児童も一定程度存在する。

国語・理科等で子どもが自ら問いを立て追究する「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体化した実践において学び方を身につけつつあるが、めざす資質・能力や見方・考え方の育成にはさらなる実践の改善が必要な段階にある。

問題解決的な学習の仕方や学習への手ごたえに関する学力調査等の質問については、肯定的に回答した児童の割合が8割弱あり、校内研修の成果が表れているが、学年が上がるにつれて数値が低下する傾向にある。

「豊かな心・健やかな体」の現状

地域の方々から「子どもたちの顔がとても穏やかになり、挨拶ができる子が多くなった」との声を聞くようになっている。これは、全教職員が「受け止め」「認め」「ほめる」言葉を効果的に使って授業実践を行うとともに、子どもの人権に配慮する意識をもって全ての教育活動を行い、子どもとの信頼関係を築くことを基本としているからである。こうした取組が功を奏し、学力調査等の質問紙において、自分への自信を表す「自分はやればできると思う」の項目や、自己肯定感を表す「自分にはよいところがある」では肯定的な回答が8割を超えるようになっている。その一方で、スマホ所持率や長時間使用の割合は市平均より高く、SNS関係のトラブルや睡眠の質の低下等、学校生活全般への影響が懸念される。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～1月)	達成状況 (年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	教科・探究の力向上	各学年で身につけるべき資質・能力や見方・考え方を明らかにし子どもが自ら課題を設定し解決に向かう探究の学びを保障する。そのために授業改善を進める。	●個々の出発点から学びを始め、自ら考えを表し、交流し、振り返って手応えを実感できる学習の展開に向けた授業改善	自力解決してノートに記入する子が8割。説明できる子が5割。	ノート、タブレットの記述	毎学期	○ 資質・能力や見方・考え方を高めるため、自ら問いを立て追究する学習が高学年を中心に継続している。	◎ 自ら問いを立て追究する学習が高学年から中学年にも広がり、資質・能力や見方・考え方を高めている様子が見られる。	◎ 自ら問いを立て深く考え追究する学習が進められていることは児童の様子からよくわかる。児童にとって楽しい学習になるように今後も続けてもらいたい。
			生活、総合において、自ら課題を設定、調べ、まとめ、発表する探究の学習内容の充実	課題設定からまとめ・表現に至る探究の学びがみられる子が5割	板書の記録 児童のノートの記述	毎学期	○ 活動を振り返って改善、データをまとめて行政と折衝等発達段階に応じた探究が進んだ。	◎ 地域を対象とした探究の学びに積み重ねが見られ、総合3年では福田小学校と学習成果の交流会を行う等の新たな取組が見られた。	◎ 発表する対象や方法に工夫を加えつつ、地域を題材にした探究を続けてもらいたい。
	学びの基礎力の向上	低学年からの家庭学習の習慣をつけるための取組と、思いや考えを粘り強く表そうとする力や態度をつけるための取組を進める。 就学前から一貫して上記の力をつけるための取組を進める。	●「読解指導」「書く活動」の充実と教師の赤ペン指導による考えを言葉で表す習慣づくり	思いや考えを粘り強く言葉で表そうとする態度を有する児童が8割	連携会議による効果の検証	毎学期	○ ノート記述から学習状況を読み取り、赤ペンでの「対話」がきめ細かく行われている。	○ 詳細な学習状況の読み取りや赤ペンでの「対話」で自己の課題に向き合える授業作りが進み、学習への意欲や粘り強さが増している。	○ きめ細かい学習状況の読み取りや赤ペンでの励ましや学習への意欲を高め、問題行動を抑止していることは理解できる。働き方改革も視野に入れて無理なく進めてもらいたい。
			朝の時間や放課後を使った補充学習の充実。「考える」「調べる」自主学習ノートの実施。 ★中学校区のこども園・小・中学校間で公開授業等による一貫しためざす子ども像の育成	習熟に合った記録物、自主学習ノートの記述内容	学習ノート、ワークシートの記述	毎学期	○ 提出日や回数を指定した自主学習ノートの取組が広がり、よいノート例を掲示する等意欲を高める工夫が行われている。	○ 自主学習ノートの取組が広がるとともに質が向上し、楽しんで学ぶ児童が増えている。	○ 地域の幼小中が連携して地域の子どもの育てようという取組には大いに期待する。
豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	すべての教育活動において人権的な視点での見直しと支援を行う。道徳教育の計画的な実践を行い、評価について研究を深める。読書活動の充実で心を耕す活動に力を入れる	道徳教育の教科化に対応して、授業の充実と評価システムの確立	道徳の教科書を計画的に活用する。	指導案の提出	毎学期	○ 内面にある道徳的価値を自覚させ、道徳実践力につなげるように授業を工夫している。	○ 道徳教育推進教師による公開授業等により、実践力につながる学習のあり方を共有した。	○ 多様な家庭環境にある児童がいる中で、それぞれの人権を尊重する取組の成果が感じられる。学校外での問題事案に対して、地域や保護者が協力して対応できる方策を考えたい。読書離れが進む中で、児童が多様な本に触れ、読む機会を増やす取組を続けてもらいたい。
			強い否定や命令口調ではなく、児童の尊厳に配慮した「温かい言葉」が飛び交う環境づくりに励む	終礼や職員会議での生徒指導の事例の減少	指導報告書	毎学期	○ 安心して自分を発揮できるよう。肯定的、受容的な雰囲気を作る努力をしている。	○ 上記の「確かな学び」を創り出す取組を児童の尊厳を大切にす姿勢で進めたことにより、児童の自己肯定感も向上している。	
	●図書館を活用しての読書量の増加をするために働きかける。	図書館のデジタル化で冊数の把握可能。	実施報告	毎学期	△ 読書傾向を分析し、読書の幅を広げる取組を計画している。	△ 読書の幅を広げる取組として図書委員会が読書ビンゴを実施。読書習慣形成は課題だ。			
体力の向上	体育の学習における運動の質と量の向上と学校行事等との関連によって、体力、運動能力を高め、運動習慣を形成する。	体力テストの結果において、昨年度の結果からの経年評価をして、課題を把握	反復横跳び等の本校の課題の種目のデータ分析	報告書	毎学期	○ 授業改善による体力・運動能力、運動習慣の形成を図るため、体育科を専門とする教員が各学年の授業づくりについて助言している	○ 質の高い問題解決学習と十分な運動量を両立する体育授業が各学年で広がった。	○ 目標に向かってがんばり、上手になるとともに仲間のつながりを強めていく取組をこれからも続けてもらいたい。	
		体育のなわとび単元と学校行事のなわとび大会を運動させるなど、運動の習慣化を進める。	なわとび大会での各学年の記録が前年度を上回る。	実践報告	毎学期	○ 長なわ大会と体育の長なわの学習を運動させ、学習効果を高めている。	○ 体育授業や委員会の取組と運動させた長なわ大会により、記録の向上のみならず、学級集団としての成長が見られた。		
地域協働	信頼される学校	学校情報の積極的な発信、地域人材ボランティアの活用など、地域との連携を深める。	教育活動に積極的な人材の発掘と登録とその活用	ゲストティーチャーやボランティアの人数の増加	実践報告	年度末	○ 地域の方の協力による福祉活動、各種施設との交流による探究の学びが定着している。	◎ ご協力により発達段階に応じた探究の学びが定着し児童の地域への意識が高まった。	◎ 地域としては、校区を対象とした生活・総合での探究の取組に引き続き協力したい。学校としても、地域とのつながりを大切にしたい取組を続けてもらいたい。
			●学校だよりやホームページを中心とした情報発信の継続と充実	昨年度の発信記事数を上回る	発信数比較	年度末	○ 児童が自ら学び、資質能力や見方・考え方を高める様子を校報・HPで発信している。	○ 制服リサイクルも定番活動として定着した。校報やHPでの質の高い発信を続けたい。	

校長より (年度末)

- ・自ら問いを持ち追究する「個別最適化と協働化を一体化した」学習が、国・社・算・理等の教科や中・高学年に定着し、資質・能力や見方・考え方の育成に成果が見られた。
- ・地域を題材とし、地域に「出会う」→「知る」→「貢献する」という探究の学習が定着し、取組の積み重ねにより児童の見せる態度や能力に高まりが見られた。
- ・様々な面で「困り感」のある児童の自己肯定感を高めるため、実態把握、原因究明を具体的な対策につなげる校内体制の構築や外部機関との連携に引き続き努める。

学校関係者評価者から (年度末)

- ・一人一人を大切にしたい教育活動を継続し、適宜発信してもらいたい。
- ・地域を題材とした探究の学習は、今後も続けてもらいたい。
- ・体力向上や読書習慣の形成に引き続き取り組んでもらいたい。